

1月26日寒さ厳しい中春季大祭が執り行われた。明治20年1月26日、教祖がこども可愛い親心から現身を隠されより、存命の親として今も変わることなく、陽気ぐらしの世界にとお働き下されています。



教祖の思いを胸に刻んで!!

おやさま

○おつとめ 月次祭に参拝しましょう

教祖はよろづたすけの為におつとめをお教え下さいました。先人の方々は、教祖御在世当時は現在のおさづけは無く、ただただお教え下さったおつとめによって素晴らしいおたすけ、御守護を戴いて来られました。おつとめこそよろづたすけの根源であります。各々の教会での月次祭もおちばの理を戴いています。参拝させて頂きましょう。

○おたすけに励みましょう

病んで困っている方に、すすんでおさづけを取り次がせて戴きましょう。教祖から戴いたおさづけ！おさづけの御守護の元は勿論、取り次ぐ者の誠の心であります。又、前述のおつとめも合わせてであります。

○おちばに真実の伏せ込みをしましょう

御守護の元はおちばであります。教祖のお働きであります。ちばに心を向け、各々の教会にしっかりと心を寄せて進ませていただきます。

支部活動連絡版

◎布教部

定例にをいがけデー

2月28日(木)13時～14時

河内松原駅前 交番横広場
神名流し・路傍講演・チラシ配り・
ごみ拾い etc

服装:自由 チラシは各自でお持ちください。路傍講演用のフリップ(原稿)は用意しています。

◎婦人会

*2月の例会はお休みさせていただきます。

担当)森繁礼子

☎333-5001



◎学生会

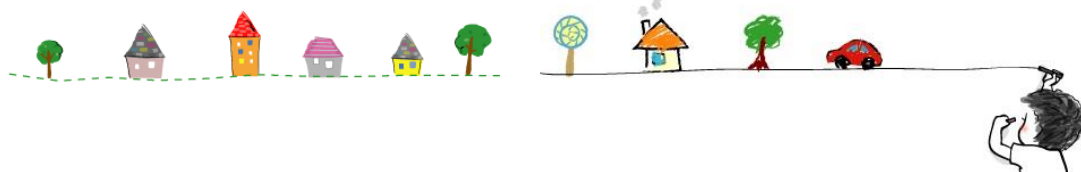
*春の学生おぢばがえり

3月27日～29日

◎ひのきしん部

*春の献米 3月26日

真実をおぢばへ



行事御案内

●教区記念祭

4月9日(火)午前10時より

講話 宮森与一郎先生(内統領) ★大勢ご参拝ください。

●婦人会総会

4月19日(金)午前9時30分(於本部中庭) ■午後記念講演

●全教一斉ひのきしんデー

4月29日(祝) 場所 松原中央公園にて

●婦人会創立110周年

「会員決起の集い」 5月1日～9月16日

全国各地域にて開催されます。挙って参加しましょう！

松原支部なんでもたすけあい隊

各家庭では『一寸したいこと・一寸手を加えたいこと・一寸直したいこと』等、色々にあると思われます。しかし手が足りない、年寄りばかりで動けない、お困りの方が居られましたら、遠慮なくご相談下さい。例えば

障子紙を張りたいー 庭木を切りたいなー 溝を掃除したいなー

網戸が破れたなー この品物が邪魔やなー などいろいろに

連絡先 本芝福分教会 ☎(331-0007)

小松崎 ☎(090-4301-7792)

松原支部、本部月次祭参拝車両運行のお知らせ 《2月26日分》

○交通費 1,000円

○昼食(お弁当、お飲物は各自)

8:00 河内天美駅集合(出発)

8:15 高見ノ里駅集合(出発)

8:30 河内松原駅集合(出発)

申込先☎072-332-3746 本福修分教会 松本篤司まで。

(※送迎先など詳細は御相談下さい。)

阿保公園は
2月は中止
とさせていただきます。

松原支部 地域ひのきしん

河内天美駅前広場 第1日曜 5時～6時

天美北児童公園 第2日曜 9時～10時

阿保公園 ★2月は中止とさせていただきます

阿保東部第一公園 第4日曜 9時～10時

★支部活動へのご質問等は組長にお尋ねください。

1組 大平六郎 ☎336-3185 西野々1丁目 17-28

(副組長)松本篤司 ☎332-3746 阿保1丁目 12-1

2組 綿谷善和 ☎336-5859 新堂5丁目 324-4

3組 朝倉裕三 ☎331-7914 東新町5丁目 18-15

4組 河竹久子 ☎331-3936 天美東2丁目 165-1

教区・支部
ねっと
「松原支部」



教祖のお言葉

■地と天とのへだたりについて

「ぢ(地)はぢいとしてゐるから、ぢイといふ。てん(天)はてんじかはる(転じ変わる)もの故てんといふで。又人間の心のく(苦)を以てくも(雲)と云うで。くもがいくへも出た時は、ひくうみえるやろ。一点の雲もなく、につ本晴れといふ日には、なんぼう高いとも、わからんやうに見えるやろ。これが天やで。人間の心も、その通りやで」(正文遺韻抄 158 頁)

高井猶吉らが、教祖の御前で「この地と天とは、どの位のへだたりがあるものならん」と、語り合っていますと、教祖は、このように仰せになりました。

立教の元一日と入信

天理教の立教は天保九年十月二十六日ですが、これは、世界一れつの人間をたすけるために天降^{てんぼう}った元の神・実^{じつ}の神のお言葉を、教祖の夫^{おやさま}・中山善兵衛様^{なかやまぜん べ え}が、一切の人間思案や一家の都合を捨ててお受けした日を指しています。

初めて親神様^{おやがみさま}の啓示^{おつげ}を聞かされたのが、それよりほぼ三日前のことです。その日をもって天理教立教の元一日としてもいいのに、なぜ二十六日をもって元一日とするのか。

それは当時、人間の立場を代表して、善兵衛様が親神様の思召^{おぼしめ}しに順^{したが}うことを決心し、その旨ご返事を申し上げたからです。

親神様の思召を聞いたが、それに順うという心が定まらなかったら、以後、親神様のおはたらきは見せていただけないのです。言い換えますと、この人間の決心が立教の土台であると言えます。

天理教の立教の元一日は、中山家の入信の元一日であったと言えます。では、現在の私たちは、いつをもって入信の元一日とすべきか。

教会長や布教師の口から初めて天理教の話を聞いた日が、入信の元一日なのか。あるいは、最初におぢば帰りをした日を指すのか。それとも、別席を運び、おさづけ^{いただ}の理を戴いた日を言うのか。

もちろん、それらは入信のかどめであることに違いありません。しかし、それは形のうえのことで、形ができて、親神様の思召に順って生きますという決心がでない間は、本当の意味で入信したことにはなりません。

それだけで終わるなら、十月二十六日以前の姿で、つまり立教以前、入信以前ということになります。

自分は何年も信仰しているけれども、実態は立教以前であるか以後であるか。このような目で、天理教の立教の元一日と自分の関係を点検することも大切でしょう。